

歴史を学び
「みらい」をつくる



第三世代が考える

ヒロシマ

「継ぐ展」

Hiroshima - 3rd Generation Exhibition : Succeeding to History

会 期

8月3日^{WED}(水) ~ 8日^{MON}(月)

会 場

みなとみらいギャラリー 他

神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-5 クイーンモール内2F

時 間

11:00 ~ 19:00 ※最終日 17:00 まで

入場無料

Admission free

組織



広島大学、広島修道大学、神奈川大学、関東学院大学、デジタルハリウッド受講生含む約 90 名が参加

2015 年から活動をしている 30 代の継ぐ展メンバーに加え、今年は昨年来場者だった方がスタッフとして参加、各種教育機関との連携も行い、15 歳から 60 代まで、国籍は中国・アメリカを含む約 90 名が集まり制作しました。



ヒロシマの記憶を継ぐ人インタビュー取材（4月）

広島と神奈川で、被爆者や被爆体験伝承者など8名のインタビュー取材を行いました。被爆者の方々は地図や絵などを使い当時の様子を説明してくださいました。取材参加メンバー18名：神奈川大学 学生、広島大学 学生、継ぐ展メンバー有志



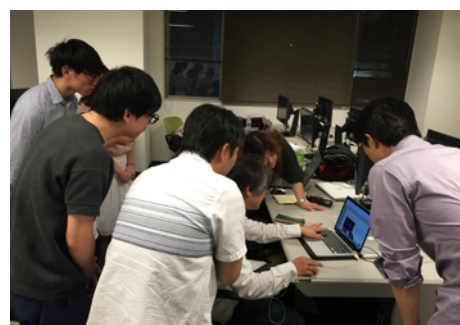
インタビュー協力：被爆者 梶本淑子さん、神奈川県原爆被災者の会（被爆者 佐藤良生さん、松本正さん、西富房江さん）
 神奈川県在住の被爆体験伝承者 石綿浩一さん、関東在住の候補生 藤澤千夏さん
 広島大学研究員 嘉陽礼文さん、カフェで若者と被爆者がつながる「はちろくトーク」主宰 福岡奈織さん
 取材場所提供：神奈川大学

制作



広報制作 (4月～7月)

継ぐ展に関連する5つのWEBサイトを、デジタルハリウッドSTUDIO OJTメンバー(在校生・卒業生)30名で制作。
クリエイティブな面からヒロシマというテーマに触れるきっかけになりました



継ぐ展オフィシャルウェブサイト
<http://tsuguten.com/>

広島を継ぐ人インタビュー
<http://tsuguten.com/interview/>

市民参加型朗読劇「ヒロシマの孫たち」
<http://tsuguten.com/act/>

夏休み自由研究ツール
<http://tsuguten.com/kenkyu/>

とうろうに込めるメッセージ
<http://tsuguten.com/message/>

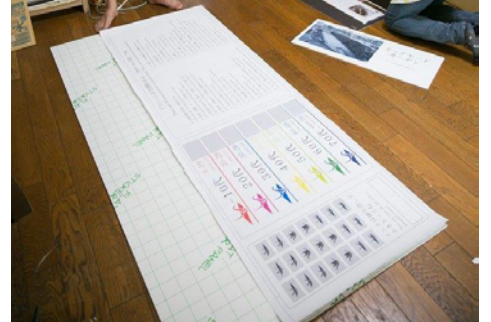


制作



展示物制作 (5月～7月)

展示パネル 235 枚と平和へのアクションモニュメント制作、とうろうに込めるメッセージアプリ開発などを各セクションに分かれて行いました。



設 営

HIROSHIMA 継ぐ展

設営 8/2 9:00-18:00

継ぐ展メンバー有志 30 名で、みなとみらいギャラリーや関連施設への設営を行いました。

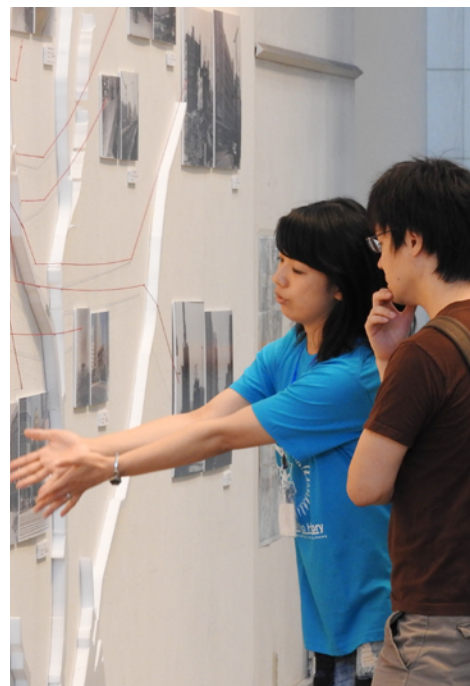


常設展



被爆建物から見るヒロシマ写真展

現在も広島に残る被爆建物を 70 年前の写真と同じアングルで撮影。立体的な広島の地図の上に配置し、当時と今を比較できるコーナーを設置しました。写真：及川誠・山本早苗（2015）、平和記念資料館（所蔵・提供）



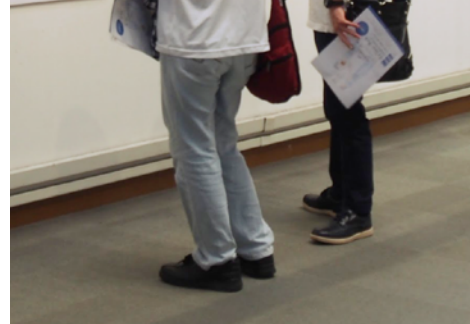
常設展



『絵で読む広島原爆（福音館書店）』原画展

第43回産経児童出版文化賞の受賞作。絵本作家 西村繁男さんの作品の原画を展示（一部レプリカ）。

多くの方がじっと立ち止まり、絵と文章からヒロシマを学んでいました。



常設展



広島関連書籍コーナー

「はだしのゲン」、「図録 ヒロシマを世界に」など広島の前爆に関連する書籍、絵本、漫画、写真集が自由に読めるコーナー。スタッフによる読み聞かせも行われました。



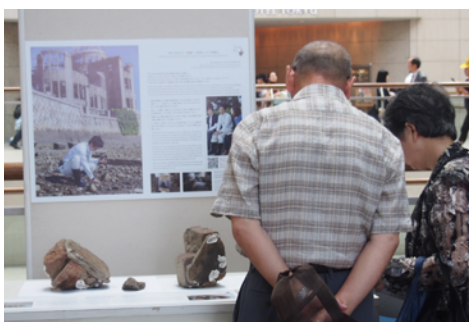
常設展



広島原爆資料パネル・石材展示

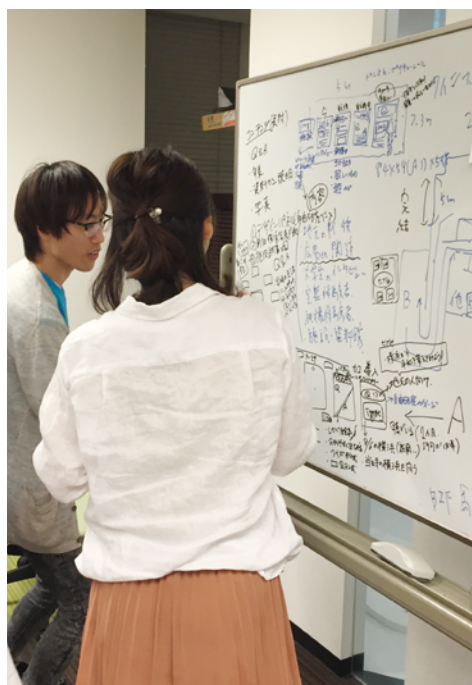
被爆の実相を学べるパネルと、触れることができる原爆で破壊された建物の瓦礫や石材の展示を行いました。

パネル：広島平和記念資料館（提供）被爆石材：嘉陽礼文（広島大学研究員 提供）



神奈川県平和関連資料・施設紹介

開催地である神奈川の戦時中の歴史も来場者の方に知って頂く目的で、横浜大空襲体験者への取材や、神奈川県にある平和関連資料・施設を神奈川大学、関東学院大学、デジタルハリウッド OJT メンバー 11 名が調べ、パネルにしました。



ヒロシマの記憶を継ぐ人インタビュー展示

被爆者の方をはじめ、広島市被爆伝承者養成事業２期生の石綿浩一さん（神奈川県在住）など
ヒロシマを継ごうと活動している若い世代を含めた計１６名取材したインタビューを冊子、WEB、ミニパネルで展示。



常設展



とうろうに込めるメッセージ

タブレットを使い平和へのメッセージを込めたとうろうを仮想空間の川に流し、8月6日に広島で設置される継ぐ展ブースへ届けました。
「他の人の想いを形にして見ることで、自分はどうか継いでいけばいいのかを考えることが出来ました。」と来場者からも感想を頂いています。



コンテンツ開発：株式会社アーキタイプ、松本 創、櫻井雄大 Sound：鎌田まみ



あなたにもできる身近な平和へのアクション

20 案のピースアクションの中から、自分が出来そうなものを選び「折り鶴はんこ」をおしていくモニュメント。消しゴムはんこ：津久井智子
総数 1037 個。最も多かったアクションは「家族や子供たちと戦争・平和について話します」年代は「～ 10 代」次いで「40 代」。

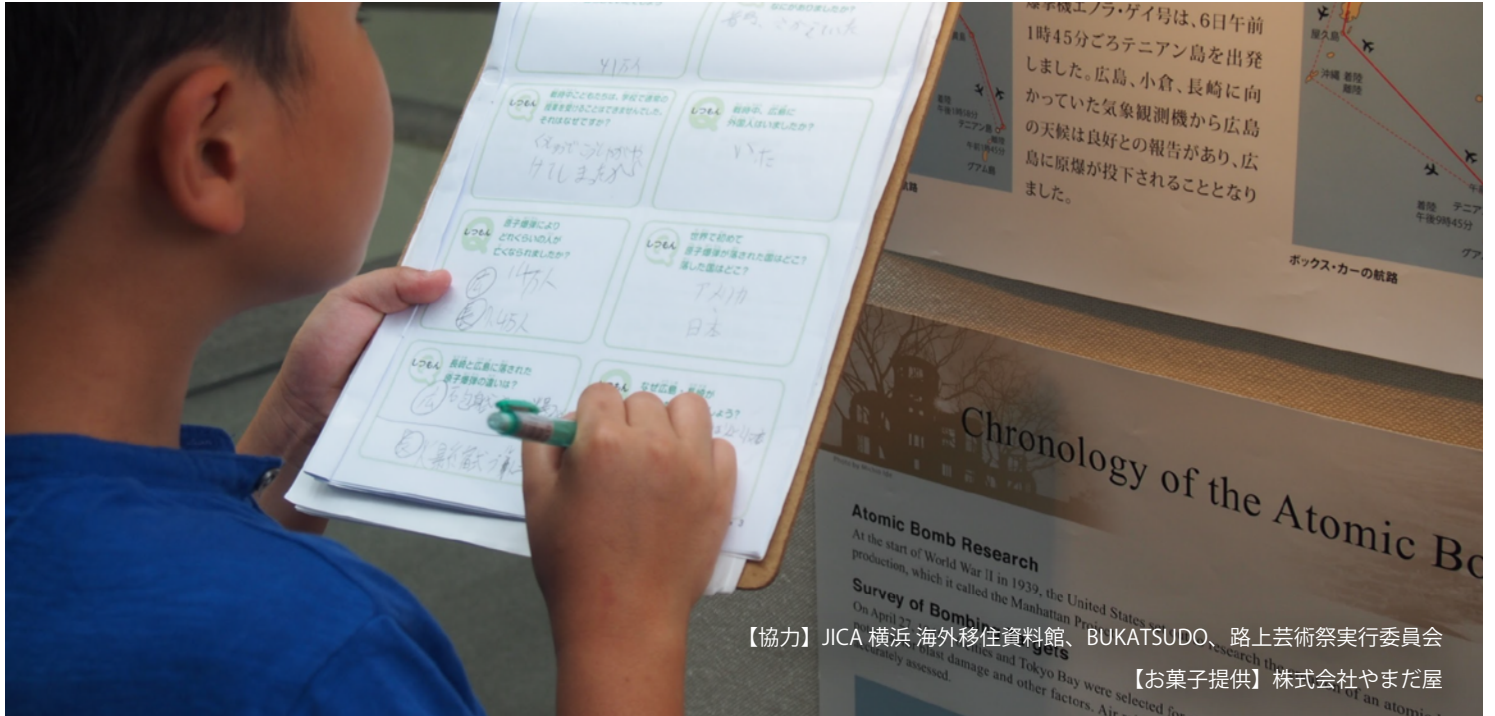


イベント



8/3（水）～ 8/8（月）夏休み自由研究ツール配布 & スタンプラリー

小学生高学年以上を対象とした自由研究ツールを配布。同時に広島平和記念公園内の慰霊碑などが学べるスタンプラリーをみなとみらい周辺エリアで開催。自由研究参加者には株式会社やまだ屋の広島銘菓をプレゼントしました。



イベント



8/5（金）, 8/6（土） 語り部 岡田恵美子さんと対話しよう

（財）広島平和文化センター委嘱、被爆体験証言者の岡田恵美子さんと参加者が会場内で対話を行いました。

2日間で約80名の方にご参加いただき、語りの様子は8/5 神奈川テレビ tvk ニュースで放送されました。



8/6（土）絵本作家 西村繁男さんの「絵で読む広島原爆」にまつわる話を聞こう

広島に長期滞在をし、綿密な聞き取りに基づいて生まれた絵本の原画を西村繁男さんが解説してくださいました。

参加者 20 名の方々は真剣に耳を傾けていました。



イベント



8/6 (土) "食" から広島を知ろう - 広島風お好み焼きのいま、むかし -

広島戦後の復興を担ってきたお好み焼きの歴史を学び、一銭洋食から現代のお好み焼きを参加者の方に食べ比べて頂きながら食からヒロシマを見ていきました。被爆者の岡田恵美子さんもゲスト参加され、戦後の食糧事情を語って下さいました。



【共催】みなとみらいごはん部 【協力】株式会社 WIDE ISLAND
【協賛】オタフクソース株式会社 【開催場所】BUKATSUDO キッチン



8/6（土）消しゴムはんこ作家 津久井智子さんの折り鶴はんこ作りワークショップ

折り鶴モチーフの消しゴムはんこを彫り、作ったはんこを、企画展内の平和へのアクションモニュメントに捺すワークショップ。

小さいお子さんから大人まで約 30 名が参加しました。【開催場所】BUKATSUDO スタジオ



イベント



8/6（土）, 8/7（日） チョークで路上にアオギリの葉を描こう

広島平和記念公園に奇跡的に再生した被爆アオギリの姿を路上に再現。通行者の方に葉っぱを描いて頂き、2日かけて平和の木を育てました。参加した子どもたちは自由な発想で葉っぱを描いていました。【共催】路上芸術祭実行委員会 【開催場所】みなとみらいグランドセントラルタワー MM テラス



イベント

HIROSHIMA 継ぐ展

8/6（土）とうろうに込めるメッセージ AT 広島とうろう流し会場

広島平和記念公園内 原爆の子の像近くに継ぐ展ブースを設置し、スクリーン上にインターネットを通じて各地から寄せられたピースメッセージを流しました。現地でもタブレットからとうろうを流すコーナーを設けインタビューパネル展示を行いました。その様子はみなとみらい会場にライブ中継しました。海外の方が多く立ち寄られた印象でした。



【ボランティア】継ぐ展有志メンバー、広島大学 学生、広島修道大学 学生
【運営】株式会社ファンブ 【開催場所】広島とうろう流し会場内 継ぐ展ブース



イベント



8/7（日）市民参加型朗読劇「ヒロシマの孫たち」発表

世代を超えた市民が、2日間のワークショップを経て被爆者へのインタビューをもとに作られた朗読劇を発表しました。

ワークショップ参加者は自分の声と身体を使って被爆体験を表現することで、ただ読むだけではなく五感を通して8月6日と向きあいました。

終演後にはファシリテーターの柳田ありすさんと企画展主催者、広島から来られた福岡奈織さんのアフタートークがありました。



【ファシリテーター】秋葉 よりえ / 柳田ありす 【コラボアーティスト】KAIE

【協力】London Bubble Theatre Company 【開催場所】BUKATSUDO ホール



メディア



メディア掲載・出演一覧

新聞

- ・東京新聞 7/24 朝刊
- ・中国新聞 4/29、6/14 朝刊
- ・読売新聞 8/6 朝刊
- ・日本経済新聞 8/6 朝刊
- ・神奈川新聞 8/6 朝刊



ラジオ テレビ

- ・FM yokohama 84.7
- ・神奈川テレビ tvk ニュース
- ・渋谷クロス FM



情報誌

- ・mirea Vol.59 7月号
イベントカレンダー
- ・「ヨコハマよみうり」7/5号



WEB

- ・神奈川大学ウェブサイト
- ・広島大学ウェブサイト
- ・関東学院大学ウェブサイト
- ・みなとみらい 21 公式サイト
- ・横浜観光情報
- ・WEB マガジン greenz.jp
- ・Gaku-yomu / がくよむ学生主役のモラトリウム WEB マガジン
- ・ウォーカープラス
- ・子供とお出かけ情報「いこーよ」
- ・朝日新聞デジタル
- ・ALL EVENT
- ・Yahoo ! ロコ
- ・総合イベント情報サイトことさが
- ・キッズイベント



他多数

広島大学 経済学部 3 年 北川楓

“1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分”小学生の頃から毎年のように登校日ということもあって、「この日は黙祷するのが当たり前！」と思ってました。平和学習も「またこの季節がきたな〜」という姿勢で取り組んでた自分がいました。

しかし、大学に入り他県の友達と話していく中で「日にちは知ってるけど、投下された時間までは知らない」という人が多く、とても驚かしました。「当たり前」が「当たり前でない」と変わった瞬間でした。

今年、ヒロシマ「継ぐ展」のボランティアに参加させていただきました。広島に 10 年以上住んでたのにも関わらず、8 月 6 日に実際に平和公園にいたのは初めてで、また長時間過ごしたのも初めてでした。

ふと、「自分が立ってる場所は 71 年前はどうなっているのだろう。」と想像してみようと思いましたが、想像することはできませんでした。それまでの自分には現実と向き合う覚悟がなかったのです。

しかし、このボランティアを通じ改めて自分たちには時間がないことが気づかされました。被爆者の方々の平均年齢は 80 歳を超え、生の声を聞く機会が年々少なくなっていることを思い知らされました。これからの与えられる機会をしっかりと活かし、「現実」と向き合わなければと強く思いました。

そして、私自身が見たこと・聞いたことを家族や周りの友達に発信していくことが私にとっての「継ぐ」ことです。

神奈川大学 法学部 自治行政学科 2 年 内田 佳奈

1945 年 5 月 29 日。横浜がアメリカ軍によって空襲を受けた…らしい。私は横浜に住んでいるのにも関わらず、横浜大空襲のことをあまり知りませんでした。「きっかけがないから、戦争について知らなかった。」このような人はたくさんいると思います。しかし、それで終わらせていいのでしょうか。

今年で戦後 71 年の日本は、戦争体験者が少なくなり、継承といった次の世代への受け継ぎが課題となっています。アニメや映画等で、なんとなく知っている人はいる反面、その多くは受動的です。私は、現在の平和な暮らしは、過去の大きな犠牲の上に成り立っていると思います。戦後、日本人が平和を大事にしてきた延長線上に、今の日本は存在しています。しかし、戦争はただの歴史と解釈し、今は今といった形で、過去の戦争がどこか切り離されて風化しているように感じます。今こそ現在の平和と過去の戦争をつなぐ一歩として、私たちのような若者が自主的に過去を学び、平和な社会を築こうとする意思を育む歴史学習、平和学習が必要なのではないでしょうか。

今回、私は「継ぐ展」に学生ボランティアとして参加させていただきました。そこで、広島の被爆者の方と、それを継承する伝承者の方のお話を直接伺うことができました。原爆投下当時の、悲惨で残酷な、目に浮かぶほどのリアルなお話を聞いたことは、とても貴重な体験でした。

20 代の伝承者のお話は特に心に残っています。共通する時代を生きる人の言葉は、被爆者の方の経験をより身近に感じる事が出来ました。これが、次の世代へ受け継ぐ大事なポイントだと思いました。戦争体験者ではないからこそ、今の人に伝えられることもあると感じました。

私たちは、戦争というむごい悲痛な出来事があったことを忘れてはならないし、知る義務があります。当時を知ることで、現在の豊かな暮らしを改めて貴重で素晴らしいものだと感じることが出来ると思います。もし、周りの知り合いが戦場へ行くとなったら、自分は思うのでしょうか。

戦争を知らない世代が多くなってきた今、あえてつらい過去と向きあい、再びこのようなことにならないようにするのが、私たち若い世代のつとめであると感じます。

神奈川大学 法学部 法律学科 3 年 鈴木康弘

私の平和教育は、小学校の社会で戦争に関する新聞を作ったことがはじまりでした。

その時、大正生まれの祖母の戦争体験を聞いてまとめ、人間魚雷を調べました。祖母の言葉は今でも心に残っています。魚雷の悲しさは衝撃的でした。そこから戦争については度々考え、昨年の戦後 70 年の際にも、新聞、テレビ、インターネットの論客などを見聞きして考えました。

今年初めて参加させていただいたこの継ぐ展では、被爆者の方のお話を伺いました。6 日当日、広島にいた方で、前日弟さんと別れてしまった方、軍施設で働いているときにキノコ雲を見た方などそれぞれの目線から、心に迫る経験を聞くことが出来ました。被爆体験のお話を伺った後、外に出た時に、とても空気が澄んでいました。自分は今、まさに生きていると思いました。70 年以上前のこの経験は、同じ日本であった重い歴史です。それを受け止めた上で、どう自分の中に落としこむか、心に刻むかを考えました。

今の自分に出来ることは、この経験を忘れないこと、そして今を強く生きていくことだと思います。ヒロシマのことを聞き、知り、学び、考え、話したことで、自分の中ではっきりと変わったことがあります。それは戦争や、ヒロシマとの距離感が縮まり、自分事のように思えたということです。今年の 8 月 6 日は今までの記録を知る、他人事として過ごす日ではなく、お話を伺った方の顔が浮かび、現在の平和な現状を噛み締めたものになると思います。自分の知る人が「あの時」のヒロシマにいて、何が起きたか、どう感じていたのか。薄っぺらい感情、背伸びした慈しみではない、これからの 8 月 6 日は、ただただ「あの時」を偲び、今を想う時となると思います。

関東学院大学 文学部 比較文化学科 4 年 宮野 健人

私は横浜で生まれ育ちました。人で溢れるターミナル駅、日本各地から観光客が訪れる中華街、観覧車やオフィスビルの光など、沢山の顔を持つこの町が好きです。今回、継ぐ展に参加していなければ、昔戦争があったことなど考えることなく日々を過ごしていたかもしれません。

中学 3 年生の時、修学旅行で原爆ドームに行きました。衝撃的で、今でも目に焼き付いています。この時の経験が、企画展参加のきっかけになりました。

継ぐ展での私の担当は、地元の横浜大空襲について調べることでした。本やネットを使って調べた後、実際に横浜大空襲を経験された方へインタビューを行いました。事前に勉強した史実とは別の、もっとリアルな空襲の悲劇を強く感じ、机上の勉強では学ぶ事の出来ない、戦争の悲惨さを知りました。特に、焼夷弾が落とされたときの音、銃弾が飛び交う音、町が焼ける音、これらが強く印象に残りました。

インタビューの後、横浜の三ツ沢公園内にある戦没者慰霊塔に足を運びました。横浜市民として、そしてこの企画展に携わっている身として、自分に何ができるのだろうと考えました。戦争を学んで感じたことを自己完結にせず、誰かに継ぐことが、今自分にできることだと思います。

戦争を学ぶことは、決して楽しいことではありません。ですが、普段の生活サイクルの中から一歩外に足を踏み出してみれば、新しい発見、出会いがあります。また、日常とはかけ離れた存在であるからこそ、向き合うことで「今、自分がこうして平和に生活が出来ていることに感謝をする」新しい自分を見出してくれるものであると思いました。

Canadian Academy Yifan Feng (17才)

Peace is defined as freedom from or cessation of war or violence. The promotion of pacifism, from that fateful day on August 6th, 1945 has been the center of Hiroshima's mission to the world. This summer, I was able to participate in that mission. From August 3rd to August 8th, an exhibition set with the goal of spreading awareness of the atomic bombing of Hiroshima was opened in Yokohama Minato-Mirai in a publicly accessible gallery. The motive was not to question whether the dropping of the atomic bombs was right or wrong but to take an overall anti-war stance. In that aim, we have largely succeeded in conveying that message to observers.

Before going on to personal experiences, I would like to comment on the context of the issue at hand that the exhibition was trying to address and the true underlying problems among Japanese I discovered during my time at Yokohama. The truth is, not many Japanese know their own history. Whether or not this is the consequence of deliberate ignorance or a flaw of the education system, without understanding suffering at the hands of war, we cannot truly know the merits of peace.

An even more lasting experience, however, was the impression we left on observers. They seemed to leave with a genuine sense that peace was a cause that should be universally supported. In only one instance was I confronted with an observer that had views that openly defied the cause for peace. Even a U.S Marine agreed a good future would be one that wouldn't involve the deployment and use of nuclear weapons. It stands as incredibly admirable that what we pursued was not justice, but rather acknowledgment and unified resolve against conflict. I believe this was due to the exhibition's aim not to pursue a narrow goal of simply recounting the horrors of August 6th but draw them out into a modern world context and how the repetition of this particular event could be a repercussion today's conflicts.

In conclusion, not only did I believe I contributed to a cause that will convince people that peace is an ongoing and committed cause to work for, I believe I have undergone a great deal of self-growth in morals and knowledge because of this opportunity. I look forward to contributing again.



広島大学 教育学部 第3類日本語教育系コース2年 小川歩美

私は今年、第三世代が考えるヒロシマ「 」継ぐ展に学生ボランティアとして参加しました。

前から何かヒロシマや平和に関する活動に参加してみたいと思っていましたが何もしておらず、今年こそはと思いインターネットで検索をかけてみたところ、広島大学のホームページで「継ぐ展」のバナーを見つけました。

「継ぐ展」は、若い世代がクリエイティブな形でヒロシマを継いでいくというもので、他と違って興味をひかれて応募しました。授業や試験期間の関係で、企画展本展のみなとみらい会場には行けませんでした。被爆者や伝承者へのインタビューの文字起こしと広島会場の運営で参加しました。

8月6日。この日に平和記念公園にいたのは初めてでした。

8時15分を過ぎてお昼になる頃、公園に向かって歩きながら「今踏んでいるこの場所は、71年前はどうだったのだろう。」と考えました。

ボランティア当日は、「継ぐ展」広島ブースの設営と、来場者の方にとろうの流し方を説明しました。

「とろうに込めるメッセージ」という企画は、会場にあるタブレットを使って、ヴァーチャルとろうを作り、インターネット上の川に平和へのメッセージを込めて流すというものです。インターネットを通じて全国から送られてくるメッセージを8月6日の広島で受け取り、投影する役割を担っています。とろうを作る課程で、自分が平和に向けて出来ることを選択する場面があり、「継ぐ展」のタイトルにもある「 」の部分を考えるようになっていました。夜になるにつれて来場者は増えていき外国の観光者の方もいらっしゃり英語で対応しました。

「71年前のヒロシマはどうだったのか」。私にはまだ想像することが難しいです。

平和学習の多かった私たちの世代でもこうなら、それ以降の世代はどうなるのだろうと危機感を覚えています。

被爆者の方々が証言できなくなる一方で、ヒロシマのことを知らない子供たちが増えているというニュースはよく聞きます。そう考えると、知るだけではなく「継ぐ」ことの重要性を強く感じます。

「継ぐ展」に参加して、様々な人と知り合えたことで、30代40代の方々から私たち20代を含めて第三世代なんだと気付くことができました。アイデアがないうちは先輩方の活動に参加して学びながら、第三世代同士で協働して考えて、継いでいけばよいのだと、この活動を通して知りました。

私はこれから、広島市の被爆者体験伝承者プログラムに応募したいと考えています。

「継ぐ展」のホームページの中にあった「広島のを記憶を継ぐ人インタビュー」で伝承者として活動されている女性の記事を読んだのがきっかけです。

色々な気付きや人との交流、きっかけを得ることができた「継ぐ展」に来年も参加したいと思っています。



2016 年 みなとみらい会場 来場者数 1260 名（付随イベント含む）

代表：久保田涼子

会場デザイン：大蛇堂

企画補佐 / カメラ：及川 誠

経理：音谷麻子、埤田浩一

【広報】

■協力：高津 守

■フライヤー：伊藤哲朗（デザイナー）長竹俊治（ライター）

■WEB：デジタルハリウッド STUDIO OJT チーム

大石憲明、岡村早桃子、奥田 剛、小原康尚、笹川厚子、沢田直美、志田智子、高野洋輔、堤 紗織、富田佳子、西田優香、野元綾希子、松嶋義敬、武藤澄人、山根裕美、山口典音、横井智和、吉田亜希、Anthony Avila、Mad Wee

【企画・制作】

■とうろくに込めるメッセージ

開発：代島昌行（株 アーキタイプ）、櫻井雄大、松本創

音楽制作：鎌田まみ

映像投影設計：VJUSK

■神奈川県平和関連資料・施設紹介

山根裕美、遠藤雅俊、榎木恵美子、本末敬祐、宮野建人（関東学院大学）、鈴木康弘（神奈川大学）、内田佳奈（神奈川大学）西 拓哉、鶴沢佳南

■ヒロシマの記憶を継ぐ人インタビュー

取材：藤澤 千夏、福岡奈織、清永恭子、早川祐一朗、鈴木康弘（神奈川大学）、内田佳奈（神奈川大学）、福原潤（広島大学）、小川歩美（広島大学）、平松あゆ子、HIROSHIMA SPEAKS OUT



■夏休み自由研究ツール & スタンプラリー

ツールデザイン：アベケイスケ

消しゴムはんこ：津久井智子

地図製作：小菅奈穂子

ツール製本：光野委久子、高田友紀

■あなたにもできる身近な平和へのアクション

モニュメント制作：新田隆浩、大山慶子

折り鶴はんこ：津久井智子

■広島原爆資料被爆石材

提供：嘉陽礼文（広島大学研究員）

■"食"から広島を知ろう 広島風お好み焼きのいま、むかし

制作：及川千尋

講師：Kaori、石原智弘

■市民参加型朗読劇「ヒロシマの孫たち」発表

ファシリテーター：秋葉 よりえ / 柳田ありす

コラボアーティスト：KAIE



【設営・運営】

■みなとみらい会場

秋山勇次、旭 馨（神奈川大学）、アベケイスケ、内田佳奈（神奈川大学）、榎木恵美子、大高弘士（広島大学）、大山慶子、岡村早桃子、奥田 剛、金草裕美、嘉陽海子、北池ゆかり（広島大学）、清永恭子、久保田良枝（広島大学）、鯨井優子、小菅達矢、更井さおり、篠原俊哉、鈴木康弘（神奈川大学）、鈴木康夫（関東学院大学）、埴田浩一、竹内あやの、高田友紀、高津 守、中原由貴、新田 隆浩、野元綾希子、浜田あゆみ、平松あゆ子、福岡奈緒、福岡理恵、藤澤千夏、藤本 隆寛（神奈川大学）、宮原恵美、水谷元、宮野建人（関東学院大学）、本末敬祐、楊小平（広島大学）、屋比久ちひろ、山本一美（広島大学）、横井智和、Yifan Feng

■広島会場

秋吉千菜実（広島大学）、小川歩美（広島大学）、北川楓（広島大学）、小菅達矢、斎藤朱莉（広島大学）、堤中愛、原田奈々、福原潤（広島大学）、松下 桐華（広島大学）、藪井良龍（広島修道大学）、山本早苗
設営：株式会社ファンプ

【共催】

広島大学 COC、みなとみらいではん部、路上芸術祭実行委員会

【助成】

平成 28 年度みなとみらい 21 エリアマネジメント活動助成事業、公益財団法人ヒロシマ平和創造基金 ヒロシマピースグラント



【後援】

広島市、公益財団法人広島平和文化センター、横浜市国際局、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島テレビ、エフエム東京、FM ヨコハマ、広島エフエム放送、中国放送、中国新聞社

【協賛】

株式会社やまだ屋、オタフクソース株式会社、株式会社セレマ、株式会社ファンプ、株式会社 DMC 広島

【協力】

広島大学、神奈川大学、関東学院大学、株式会社アーキタイプ デジタルハリウッド STUDIO、BUKATSUDO、London Bubble Theatre Company、JICA 横浜 海外移住資料館、株式会社東急コミュニティー、みなとみらいグランドセントラルタワー、Peace Porter Project、とうろう流し実行委員会、HIROSHIMA SPEAKS OUT、DIRTY HANDZ、宮島 大本山 大聖院、株式会社 WIDE ISLAND

【Special Thanks】

神奈川原爆被災者の会、広島平和記念資料館 学芸課、啓発課、キャンパスレポート 中国新聞、横浜ベイホテル東急、みなとみらい 21 エリアマネジメントのみなさま、FM ヨコハマ 佐々木様、神奈川近代文学館 高橋様、BUKATSUDO 平賀様、JICA 横浜 清水様 中野様、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 福岡様、とうろう流し実行委員会 若狭様、広島大学副学長 木原様、同広報課 山内様、同東京オフィス、神奈川大学 旭様、同広報課、関東学院大学 鈴木様、同広報課、金様、古牧様、三鷹市立下連雀図書館 岩間様、森本様、企画者祖母

